

# Information

## イベントカレンダー

### ■ 三富落ち葉野菜研究グループ「10周年記念事業開催のお知らせ」

埼玉県の上野市や所沢市にある「三富新田」は、江戸時代の開拓以降、平地林の落ち葉を堆肥化するなど、代表的な循環型農業地域のひとつであり、世界的にも注目されています。

- ・日時：12月9日（日）13：30～15：30  
（雨天の場合は、三富町農業センターで内容短縮にて行います）
- ・場所：井田農園（埼玉県入間郡三芳町上富254番地）
- ・内容：焼き芋、利き芋大会、ひまわり絵画展、野菜直売、ミニコンサート、どんぐり工作、三富新田をテーマにしたオリジナル紙芝居発表  
※汚れても良い服装、靴でお越しください。（畑の中で行うため）
- ・参加費：200円（保険代等）
- ・定員：100名（先着順）
- ・申込み方法：Eメールにて、下記の連絡先まで応募
- ・主催：三富落ち葉野菜研究グループ
- ・お問い合わせ：santome\_ochiba\_ken@leaf.memail.jp  
もしくはTEL090-3249-1991  
（三富落ち葉野菜研究グループ・島田）



### ■ 東京水災フォーラム2007 ～近年の水害について考える。東京では～

- ・日時：12月19日（水）14：00～16：30（開場・受付13：30～）
- ・場所：すみだリバーサイドホール（墨田区）  
東京都墨田区吾妻橋1-23-20 TEL03-5608-6430
- ・内容：
  - 基調講演「近年多発する都市型洪水と大規模洪水について  
宮村 忠氏（関東学院大学工学部教授）」
  - パネルディスカッション  
「これから発生する洪水に、我々はどう備え、どう行動するか？」  
●パネリスト  
宮村 忠氏（関東学院大学工学部教授）  
五月 みどり氏（荒川地元ゆかりの著名人）  
山崎 昇氏（墨田区長）  
岩田 美幸（国土交通省荒川下流河川事務所長）  
コーディネーター 井上 能行氏（東京新聞編集局長）
- ・参加費：無料
- ・定員：300名（要事前申込み）
- ・申込み方法：ハガキ・FAX・インターネット等で右記連絡先まで応募
- ・主催：国土交通省荒川下流河川事務所、東京新聞
- ・後援：東京都、墨田区、（社）土木学会、（社）日本災害情報学会、共同通信社、MXテレビ
- ・お問い合わせ：TEL03-6910-2483（東京新聞広告局「東京水災フォーラム」係 <平日10：00～17：30>）

#### お申込み

- ◆インターネット  
下記URLにて必要事項を記載し応募  
<http://www.tokyo-np.co.jp/event/ky/suisai/>
- ◆ハガキ・FAX  
イベント名「東京水災フォーラム」と明記の上、郵便番号、住所（参加証送付先）、氏名、年齢、職業、電話番号を記入し、下記あて先までお送りください。  
〒100-8502（住所は記入不要）  
東京新聞広告局「東京水災フォーラム」係  
FAX 03-3595-4877

【12月11日必着】

## 事務局便り

### 川づくり連絡会に参加してみませんか？



川づくり連絡会の様子

原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は、右記事務局までお問い合わせください。（開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。）

### しんぶん「里川」掲載情報を大募集します！

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙または FAX・メールにて事務局までお寄せ下さい。

#### ■ 連絡先

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1  
新河岸川流域川づくり連絡会 事務局  
（国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内）  
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346  
URL <http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/>  
E-mail [shingashi@ara.go.jp](mailto:shingashi@ara.go.jp)

# THE SHINGASHI BASIN NEWS

## 新河岸川流域しんぶん



VOL. 49

発行●新河岸川流域川づくり連絡会（荒川下流河川事務所 調査課内）  
住所●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346  
発行日●2007年（平成19年）12月3日



切り絵 毛利将範

街路樹のイチョウもすっかり黄色くなり、街中にはコートを着込んで足早に歩く人の姿が多く見られる季節となりました。先日東京地方に「木枯らし1号」が吹きましたが、今年は平年より1ヶ月近く早かったそうです。これから少しずつ寒い冬に近づいていきますが、読者の皆様は健康に気をつけてお過ごしください。

今号では、10月20日に志木市で開催された「平成19年度新河岸川流域フォーラム」の様態を詳しくお伝えいたします。午前中はウォーキング、午後は総合治水セミナーと題して事例紹介や講演などが行われました。また、流域の活動紹介では、「第7回白子川源流まつり」の様子を報告いたします。

## 目次

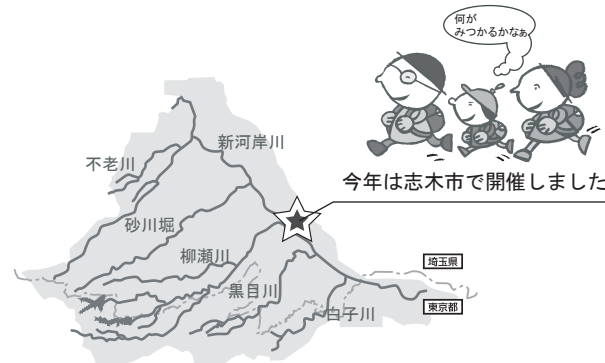
- P2-5 特集：新河岸川流域フォーラム
- P6 レポート：流域の活動紹介
- P7 行政からのお知らせ
- P8 流域イベント・インフォメーション

# 報告！ 平成19年度 新河岸川流域フォーラム

## みんなの流域、みんなで治水！

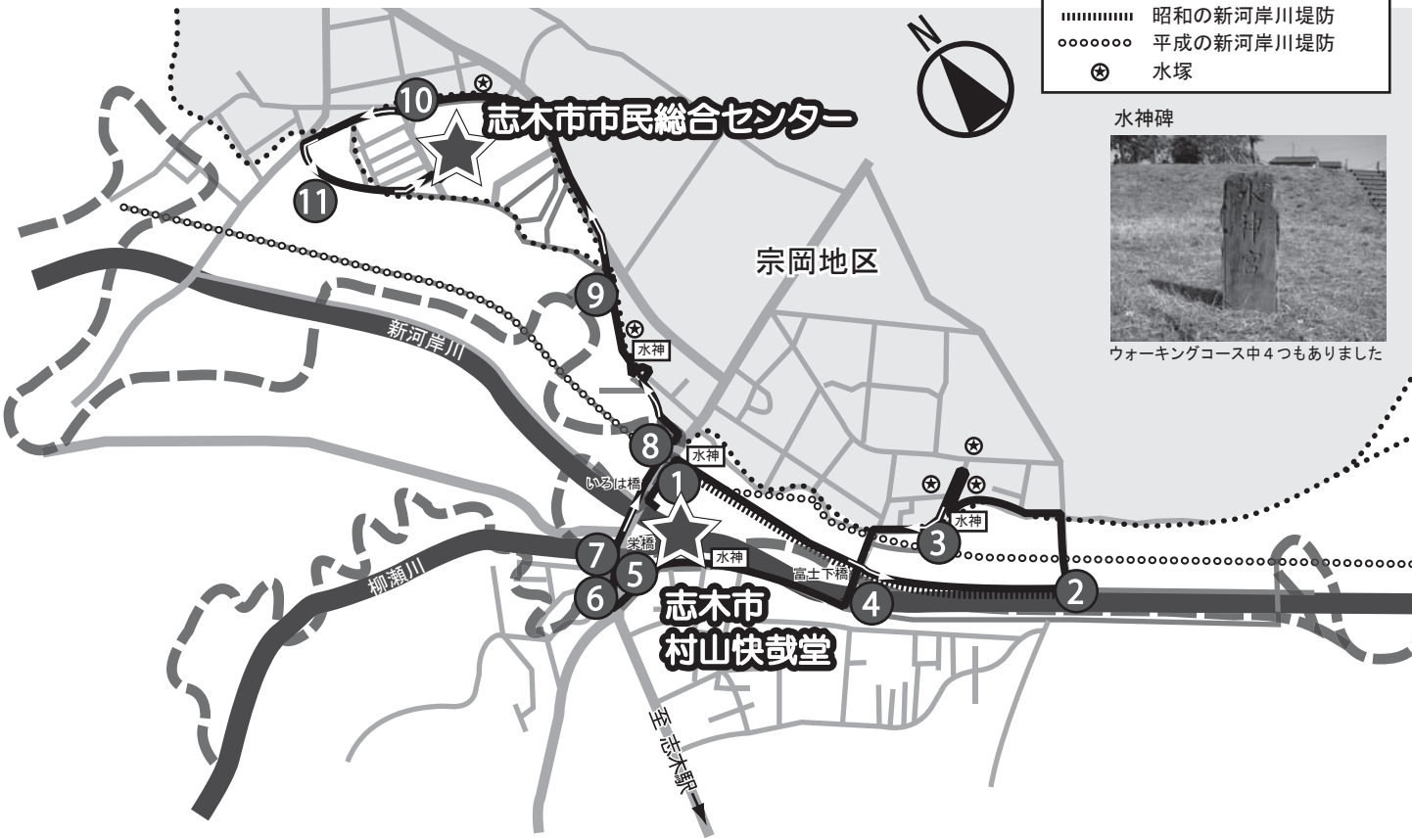
総合治水対策の取組が始められてから25年が経過し、この間流域では様々な事業や施策が進められてきました。また、流域住民の方々のニーズの多様化に併せて、各種の市民活動等が行われてきました。市民活動については、支川ごとにグループ化されるとともに、「新河岸川流域川づくり連絡会」を通じて、支川間の交流が行われています。連絡会が発足し、今年で10年になります。

今回のフォーラムは、これらの蓄積された取組みを振り返りながら現在の状況を把握し、今後の総合治水対策を考える一助とすることを目的として開催されました。



### 第1部 ウォーキング

初秋の風に吹かれながら、志木市の新河岸川沿いを中心に、河川の歴史、水害に対する先人の知恵、現代の治水技術を体感しました。



**1 宗岡閘門跡**

近代改修により水位が下がった新河岸川で舟を通すために昭和4年に新設された施設です。中洲には、かつての閘門の一部であるコンクリートの残骸が残っています。

**2 郷土排水機場**

低地である宗岡地区のせせらぎの小径を中心とした約160haの地域に降った雨水を3基のポンプ（毎秒4.7トン）により新河岸川に放流する施設です。総合治水対策の一環として造られました。

**3 新河岸川沿川の堤防・水塚・水田**

江戸、昭和、平成のそれぞれの時代に造られた3つの堤防を同時に見ることができます。治水の歴史を知る上で重要な資源・空間です。近くにはかつて水害時の避難場所となった水塚があります。

### プログラム

■日時：10月20日（土）10:00～16:30（受付9:30～）  
■場所：志木市市民総合センター

10:00 開会	事例紹介 (国土交通省、埼玉県、東京都、志木市、西東京市、NPO法人エコシティ志木)
10:00～10:05 あいさつ	14:40～14:45 休憩
・国土交通省 荒川下流河川事務所 調査課 多田 直人課長	14:45～15:20 セミナー「総合治水を考える」九州大学 島谷 幸宏教授
・九州大学 島谷 幸宏教授	15:20～15:30 休憩
・志木市都市整備部 内田 喜久男部長	15:30～16:30 総合治水対策相談室
10:10～12:10 第1部：ウォーキング（志木市村山快哉堂～志木市民総合センター）	進行：菅谷 輝美（新河岸川水系水環境連絡会）
12:10～13:00 昼食	相談室長：島谷 幸宏（九州大学教授）
13:00～14:40 第2部：総合治水セミナー	相談室員：国土交通省、埼玉県、東京都、志木市、西東京市、NPO法人 エコシティ志木
あいさつ・国土交通省荒川下流河川事務所 岩田 美幸 所長	16:30 閉会

■主催：新河岸川流域総合治水協議会、新河岸川流域川づくり連絡会（国土交通省荒川下流河川事務所 / 不老川流域川づくり市民の会 / 砂川堀流域川づくり懇談会 / 柳瀬川流域ネットワーク / 黒目川流域川づくり懇談会 / 白子川と流域の水環境を良くする会）

**4 新河岸川水位観測所**

水位観測所のデータを見ると、新河岸川が1日に2回、潮の満ち引きにより大きく水位変動するのがわかります。水位の差は平常時で50cmくらいあります。

**5 いろは樋の大枡**

当初は橋のように樋が川に架けられていました。明治31年頃、川の底を通過して対岸に水を送る（伏越）方式に変更され、その時に造られた煉瓦作りの大枡です。

**6 いろは樋の模型**

江戸時代、樋は木製で造られており、野火止用水から対岸の宗岡地区に水が引かれていました。当時の様子がかがえるミニチュアと寸大の樋の模型が展示されています。

**7 味場排水機場**

中野下住宅一体の雨水を集め、大雨時に河川へ放流する施設です。2基のポンプで毎秒約2トンの能力があります。

**新河岸川と柳瀬川の比較**

合流点付近の様子です。平常時において、柳瀬川は新河岸川の約2倍の流量があり、その6割以上は下水処理水です。

**8 新河岸川改修碑・野火止用水の樋管**

かつては新河岸川は朝霞で荒川に合流していました。明治43年の大洪水を機に、隅田川につなぐ大改修が行われました。

**9 北美圀樋**

江戸時代は木造でしたが、明治30年頃に煉瓦作りで改造された樋管のひとつです。志木市内にある煉瓦造りの圀樋は、各々デザインが違うのが特徴的です。

**10 大小合併門樋**

2つの圀樋を合体させて1つの樋管としたものです。現在、志木市のほか、東上線沿線の地域に煉瓦造りの構造物が多く残されています。

**11 志木市立宗岡中学校**

校庭を外周部の地面から40cm程度下げ、降った雨を校庭にためることができるようになっています。「校庭貯留」という総合治水対策の1つです。（貯留量1,650m<sup>3</sup>）

## 第2部 総合治水セミナー

『みんなの流域』で取組まれている「川づくり」について、行政・市民から事例紹介が行われた後、九州大学の島谷教授よりこれからの総合治水のあり方についてお話がありました。総合治水対策相談室では川づくりに関する様々な質問が寄せられ、参加者全員で『みんなが治水』について考えました。

### 主催者あいさつ

国土交通省荒川下流河川事務所 岩田所長より、新河岸川流域について、将来を見据えた中で、どのような川づくり、川との関わり、川との共生があるべきなのか、今の課題は何なのか等について議論深めるとなるよう期待する旨のご挨拶をいただきました。



### パネル展示

新河岸川流域の市民団体、自治体よりパネル展示やパンフレットの配架をしていただきました。



川づくり・清瀬の会



NPO法人エコシティ志木



不老川流域川づくり市民の会



柳瀬川流域ネットワーク



東大和市, その他自治体パンフレット



埼玉県河川砂防課



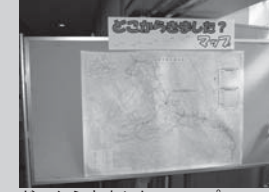
東京都河川部



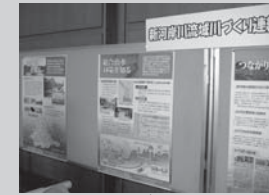
(社) 雨水貯留浸透技術協会



荒川上・下流河川事務所



どこからきました？マップ



新河岸川流域川づくり連絡会

### 事例紹介

#### 「新河岸川流域総合治水対策 及び水循環マスタープランについて」 国土交通省

- ・新河岸川流域の 8 割を占める、武蔵野台地を中心として市街化が進み、新河岸川沿いの低地部に浸水被害が発生するようになった。
- ・新河岸川流域では志茂橋の基本高水流量毎秒 1,440m<sup>3</sup>のうち、河川改修で毎秒 1,160m<sup>3</sup>、流域対策で毎秒 280m<sup>3</sup>を処理する計画となっている。
- ・現在、柳瀬川流域において、治水・利水・環境のバランスに配慮して水環境に関わる諸問題を解決するため、水循環マスタープランを作成し、現在はアクションプランを検討中である。

#### 「東京都豪雨対策基本方針」 東京都

- ・1時間に 75mm 以上の豪雨発生箇所は、神田川や石神井川の上流部や区部北西部に集中している。
- ・「東京都豪雨対策基本方針」の特徴は、河川、下水道などの流下施設や貯留施設の整備の他、流域対策やまちづくり対策をあわせて豪雨対策としたことで、従来の河川・下水道の整備目標の設定等に加え、床上浸水等防止、生命安全等の減災対策を盛り込んでいる。
- ・白子川など 7 つの流域を対策促進流域として設定し、対策促進地区（繰り返し浸水被害を受けた地区等）、対策促進施設（大規模地下街等）としている。

#### 「西東京市の雨水流出抑制」 西東京市

- ・西東京市内に約 50 箇所の中小規模の浸水地域が点在するため、実施計画に基づき緊急性の高い地域から順次事業を実施している。
- ・浸水地域の対策工事としては、道路や公共用地に地下浸透施設又は浸透貯留施設を設置し一時的に雨水排水を溜め、晴天時にポンプの自動運転により排水を行うものが多い。
- ・現在 500m<sup>2</sup>未満の個人住宅を対象とし、雨水浸透施設助成事業を進めているところだが、今後は東京都の補助制度を利用し、新河岸川流域での設置を進めていきたい。

#### 「埼玉県の取り組みについて」 埼玉県

- ・東川では河道を拡幅すると、コストと時間がかかるため、地下河川の整備を行った。不老川では平成 17年～平成 21年までの5年間で、多自然に配慮した改修事業を進める予定である。
- ・公園 1箇所、高校 24箇所、小中学校 100箇所で校庭、公園貯留を実施しており、整備は約 76%の進捗率である。
- ・行政指導内容の明確化、厳格化を図るため、雨水流出抑制施設の設置等に関する条例を昨年に制定した。
- ・今後は、水辺の再生に考慮した川づくりから「埼玉モデル」を作りたいと考えている。

#### 「雨水流出抑制の促進と助成」 志木市

- ・川と人々の暮らしの関係は、時代とともに変化してきた。また、昭和40年以後人口が6倍に増え緑が半減するなど、大きく環境が変化している。
- ・志木市では、旧朝霞水路を利用した雨水貯留、浸透トレント、校庭公園貯留、地下貯留槽などの各種対策の他、保水機能を持つ水田の保全を目的とした防災協力金交付（宗岡地区）や、雨水貯留施設等の助成などを行っている。
- ・志木市では、自然再生条例によって公共工事を計画する際になるべく自然を残すようにしており、これも雨水貯留浸透の役割を担っている。

#### 「水谷田んぼについて」 NPO法人 エコシティ志木／ふじみ環境クラブ

- ・水谷田んぼは市街化が進む柳瀬川流域に残る最大の水田地帯であり、新河岸川流域整備計画上では、遊水機能保全地区として指定されている。
- ・田んぼ周辺では多くの野鳥が見られ、バードウォッチングのメッカになっている。
- ・新河岸川流域は東京湾との間に堰などがいないため、海と川を行き来する魚などが多く見られる。
- ・川岸の植物を刈らずに残すことで、生き物にやさしい空間を保つ一方、オオブタクサ等の外来生物の繁茂を防ぐため抜き取り作業もしている。

### 特別講演 「総合治水を考える」 (九州大学 島谷 幸宏 教授)



#### ▼打ち水と総合治水

・打ち水では基本的に水道水を使わないため、まずは「水をためる」こと、すなわち水を再利用するというところから始まる。そして、舗装で覆われた地面では、水がすぐに流れてしまうことに気づく。さらに、洪水で困っている人がいたら、水を簡単にまくことができなくなってしまう。

・最近福岡市などでは、放置自転車対策として街の中のブロック塀の前に朝顔を植えたプランターを置く「朝顔キャラバン」を展開している。また、「福岡打ち水大作戦」のコラボレートで、「水をまく」という行為を「朝顔を水をやる」という行為に繋げ、まちづくりに展開している。

#### ▼総合治水の思想とは

- ・流域の中でいろいろなところから水がゆっくり出てくるような仕組み、水をためる仕組み、水を浸透させる仕組みをつくると、いいことが沢山あるのではないかという流域の思想が総合治水の思想である。
- ・治水、利水、環境を一体化させ、ただ水を貯めるだけでなく、普段から役に立つものを治水対策の上でも心がけることが重要である。
- ・囲堤や避難用の舟など、先人の知恵も含めたものが総合治水の思想。
- ・NPO 法人、市、県、国、大学などが協力して流域全体で取り組む協働の思想が大切である。

### 総合治水対策相談室

菅谷 輝美さん(新河岸川水系水環境連絡会)の進行の下、会場参加者より寄せられた質問に対し、相談室員の皆様により回答が行われました。質問の内容は、「雨水流出抑制に関する事」、「不動産取引に関する事」、「総合治水に関する事」、「河川整備に関する事」、「川の自然に関する事」などがありました。

- ・「川に自由を与えよう」、「川に空間を与えよう」、「浅くして広くして抵抗を大きくして、ゆっくり流そう」、「住民参加でやろう」という多自然川づくりの思想は、総合治水の思想と一体である。
- ・総合治水を行うことでどこで洪水が起こるかをみんなが知り、その場所が、ピンチの時だけでなく、普段の生活も豊かにするような仕組みづくりをすることが、総合治水の最後の目標であると思う。

#### ▼総合治水と私たちの暮らし

- ・年間雨量を 1,500mm とし、1日 4mm 降ると仮定する。そのうち、1mm は蒸発・発散、1mm は地下への浸透、1mm は大雨の時に、1mm は普段の川へ流れるとすると、都市化はこれらのバランスを変化させる。1日 4mm の雨の内、大雨の時に、上記のとおり流れ出てくる量を変えないようにすることが総合治水である。
- ・古代国家で、豪族の領土は流域ごとに分かれている。また、海の民が山をほめる祭りが催されるなど、山との交流があった。このことから、我々は流域の思想を先祖伝来を持っていたといえる。
- ・蛇行した河川にゆっくり水を流し、水田では稲を作り魚を捕るといった暮らしがかつての日本人の姿であった。しかしこれまでに我が国では、治水と利水、稲作と漁業を分離して発展してきた。現代の総合治水という思想は、かつての日本人の暮らしのように、治水と利水、稲作と漁業をつなぎ、新しい時代へ進むための、いわば、非常に古くて新しい思想だと思ふ。

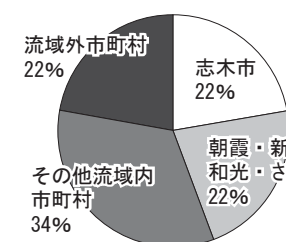


## アンケート

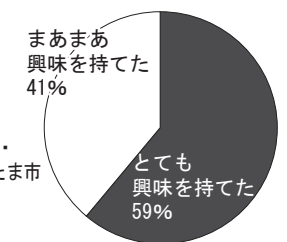
いただいたアンケートの回答によると、ウォーキングの内容、パネルディスカッションの内容とも好評でした。主な感想・意見をご紹介します。

- 志木にこのような河川関係の建造物が残っていると知らなかった、もっと宣伝する必要がある。
- 国や県や NPO 団体などが一緒にのところに座り、報告したり質問しあうのは非常におもしろかった。
- 流域で議論できる、しかも市民と行政と一緒に議論できることは大変貴重。現状視察込みの総合治水のテーマ、島谷先生のお話でテーマにふくらみが出て面白かった。

#### 参加者の住まい



#### 総合治水セミナーの内容について



## \* 第7回 白子川源流まつり \* \* \* \* \*

日時：10月14日(日) 12:00~15:30  
 場所：大泉井頭公園(練馬区)  
 内容：<ステージ>  
 12:45 音楽仲間「きのこ」演奏  
 13:15 トーク&トーク「源流談義」  
 13:30 主催者あいさつ  
 13:45 大泉南小学校4年生 『白子川調べ学習』発表  
 14:50 『はらっぱ音楽隊』初舞台  
 15:10 コンサート『ゴバックサタテイズ』  
 <コーナー>  
 絶滅危惧種「ホトケドジョウ」の展示、  
 ホタルの幼虫展示、クロメダカプレゼント、  
 縄文遺跡の紹介(火起こし・縄目紋つけ実演)、  
 雨水浸透柵道路柵コーナー、ミニ焼印体験、  
 水質・水量調査と川の様子、  
 焼印木製プレート『みんなの白子川』限定販売、  
 焼きマッシュマロ、食べ物飲み物コーナー、  
 ボーイスカウト練馬第17回のゲームコーナー  
 主催：白子川源流まつり実行委員会  
 後援：練馬区環境保全課、練馬区教育委員会



かなりの参加者がいました



小学生とは思えないほど詳しく調べてありました



何かかかっているかな?



ボーイスカウトによるゲームコーナーもありました

少し肌寒い秋の気候の中、『湧水と生物豊かな白子川源流に!』をテーマとして、第7回白子川源流まつりが開催されました。当日の会場は、1,100人も参加があったため、行列のできているコーナーが見られました。会場内のコーナーには、火起こしの実演、焼印の体験、水質実験など、日常生活では体験できないようなコーナーが目白押しでした。また体験以外でも、雨水浸透柵・道路ますコーナーや、これまでの水質・水量調査の結果をまとめたパネル、市民団体の方の活動パネル等が展示されたコーナーがあり、係りの人の熱心な説明を聞くことができました。会場内にある白子川の源流部では、ペットボトルで作ったザリガニの罠(ペットボトルトラップ)が仕掛けられていました。川の中にある木道に一列にならんだ子供たちは、実行委員会の合図とともにいっせいにペットボトルトラップを引き上げ、目を大きく開きながら中に入っているのか探していました。ステージでは、「きのこ」による爽やかな演奏から始まり、オープンセレモニーでは白子川源流まつり実行委員長菅沢さんから「きれいな白子川を見てください。」というあいさつがあり、後援にもなっている練馬区環境保全課からはより美しいまちになるための取り組みの紹介がありました。お祭り中盤になると、『源流談義』と題してこの地域に1927年から住んでいる高橋さんと白子川源流・水辺の会の本田さんによる対談イベントがありました。高橋さん

からは、白子川源流の昔のようすや名前の由来など、当時の思い起こさせる興味深いお話を聞くことができ、本田さんからは、湧き水の湧き方や水質、今年のお話についてのお話がありました。続いて、大泉南小学校の4年生による「白子川調べ学習」の発表がありました。生徒たちは地形、歴史、植物、生物、湧き水、水質、橋をテーマとしてそれぞれグループに分かれて、実に様々な視点から白子川について調べてありました。お祭りも終盤にかかると、地域の人たちで結成した「はらっぱ音楽隊」が初舞台として「翼をください」の合唱。そして、最後は毎年恒例の「ゴバック・サタテイズ」による演奏があり、今年の新曲として「白子川の歌」が披露されました。

白子川源流まつりは、地元の行政、市民団体、商店、企業との連携があり、白子川や地域をいかによくするかが考えられた内容の手作りの川祭りだと感じました。

**スタッフに聞く!**  
 ●白子川源流まつり実行委員会 実行委員長 菅沢 博さん  
**「川づくりからまちづくりまで」**  
 白子川源流まつりは7回目を数え、特徴あるお祭りの内容になってきたと思います。「白子川源流・水辺の会」も第1回白子川源流まつりと同様に活動が始まり、最近では活動が地域へと浸透してきたように感じます。川づくりをすることで人がつながり、地域が良くなって欲しいと思います。

## お知らせ 第4回 川でつながる発表会 開催決定!

流域内の学生たちが、川、水、環境について日ごろの活動成果を発表し、川についてのさまざまな世代が交流する場として「川でつながる発表会」を開催します。皆様奮ってご参加ください。

日程：平成20年2月10日(日)

場所：朝霞市中央公民館・コミュニティセンター

詳細は次号の里川にてお知らせします!

【主催】  
 新河岸川流域川づくり連絡会  
 (国土交通省荒川下流河川事務所/不老川流域川づくり市民の会/砂川掘流域川づくり懇談会/柳瀬川流域ネットワーク/黒目川流域川づくり懇談会/白子川と流域の水環境を良くする会)



昨年度の発表会の様子

## 国土交通省からのお知らせ

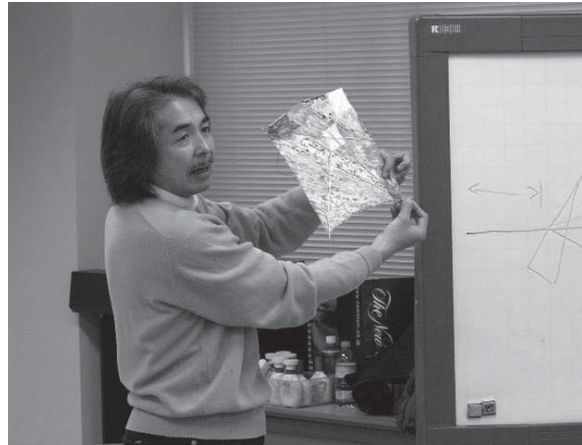
### ○荒川知水資料館(amoa)ワークショップ

荒川知水資料館(amoa)では荒川に触れることが出来る機会として年間を通じて様々なワークショップを開催しています。

#### ◆「凧あげ教室 ~荒川河川敷で手づくりのオリジナル凧をあげよう!~」

- ・日時：平成20年1月12日(土) 10:00~15:00  
 ※雨天の場合は、室内で凧製作のみとなります
- ・受付：荒川知水資料館(amoa)で9:30より受付開始
- ・場所：荒川知水資料館(amoa)及び荒川周辺の河川敷
- ・講師：志村 康夫 氏
- ・内容：手づくりの凧(トンガリ凧の2番目)に思い思いの絵を描き、荒川河川敷で凧揚げをします。  
 毎年恒例の人気プログラムです。今年も新しいデザインのオリジナル凧を作ります。  
 ※下絵も用意してあります
- ・持ち物：昼食、飲料水、筆記用具
- ・対象：一般(小学生は保護者同伴)
- ・募集人数：30名(定員に達し次第締切)
- ・費用：100円(材料費)
- ・申込み：はがき・電話・メール・直接資料館受付のいずれかで、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご連絡ください。  
 ※但し平成19年12月29日(土)~平成20年1月7日(月)まで冬休み

【受付開始】12月8日(土)



トンガリ凧の2番目  
 ※凧の絵は下絵になります



凧あげの風景

※個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に基づき適正に取り扱います。

#### ●問合せ先●

〒115-0042  
 東京都北区志茂5-41-1  
 荒川知水資料館 ワークショップ事務局  
 【TEL】03-3598-2134  
 【HP】http://www.ara.go.jp/amoa/  
 【メール】amoa-ws@ara.go.jp  
 【受付時間】10:00~16:00(月曜日を除く)  
 (月曜が祝日の場合は火曜休館)

※但し平成19年12月29日(土)~平成20年1月7日(月)まで冬休み